

第1学年B組 音楽科学習誘導案

教諭 松岡 かおり

単元 がっきと なかよし

(本校教育課程 音楽科単元 第8項 11月上旬～12月中旬 6時間)

「単元の問題」を提起する根拠

○ 子どもの興味・関心の実態

本学級の子どもは、学級の「楽器コーナー」にトライアングルやすず、ウッドブロックの打楽器を置いておくと、「トライアングルは幼稚園の時にもしたことがあるよ。」と発言したり、ウッドブロックを手にとって「カッコン、カッコン。」と言いながら叩いたり、既習学習で使用したタンブリンやカスタネット以外の打楽器にも興味を示している様子が見られた。また、トライアングルやすず、ウッドブロックを触って、「色々な音がして楽しいね。」「音楽の学習で使ってみたいな。」と発言したり、既習の楽曲に合わせて打楽器を叩いたり、リズム打ちをしている様子も見られ、打楽器を演奏することに関心を高めている。

○ 子どもの能力の実態

本学級の子どもは、音楽に合わせて楽しく歌ったり、体を動かしたり、リズムに合わせて手拍子をしたり、楽しんで音楽活動に取り組んでいる。また、カスタネットやタンブリンの打楽器で音楽に合わせて楽しく演奏することができる。さらに、楽器の正しい使い方を身に付け、基本的な打楽器の演奏をすることもできるようになってきている。しかし、打楽器を演奏する時に、「こんな音を出したい。」という思いをもったり、「叩き方を変えると音が変わる。」ということに気付いたりするまでには至っておらず、打楽器は手拍子の変わりにリズムを打つためのものと捉えている。これは、第1学年のこの時期までは、正しい演奏の仕方についての学習や、リズムに合わせて打楽器を演奏する学習が中心であり、打楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて気付かせたり、音の出し方を工夫したりする活動にまでは至っていないことが原因であると考えられる。

○ 社会からの要求

グローバル化や情報化、AIが飛躍的に発達する現代社会において、音楽をいつでもどこでも手軽に楽しむことができるようになってきた。また、音楽ソフトを活用すれば、簡単に楽器を実際に演奏しなくても、好きな楽器の音色で音楽を楽しむことができたりする。そのような環境の中にあっても、「義務教育段階の器楽教育に関する調査」によると、音楽科の授業における器楽の割合は約40%を占めており、歌唱と並んで多くの時数が充てられている。しかし、楽器の技能的な演奏法の指導が多く、「子どもに十分な達成感を味わわせることができている。」「思いをもって演奏するまでに至っていない。」という課題もあげられている。このことから、楽器の音色や鳴らし方を探したり、それらを生かして思いをもって演奏をしたりすることで、音色の違いや音の様々な特徴を捉えて表現の仕方を工夫することができる。このことは、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う上でも、大変意義深いと考える。

○ 教科系統上の要求

本学級の子どもは、これまでに、リズムを手拍子やカスタネット、タンブリンなどの打楽器で演奏する学習をしてきた。ここでは、身近な打楽器そのものやそれらの音色への興味・関心を育てながら、音色の違いや音の様々な特徴を捉えて表現の仕方を工夫し、様々な打楽器の音色とそれらの演奏の仕方との関わりにつなげていくことができるようにしていく。また、そこで得た楽器の音色への興味・関心を基にして、様々な音の鳴らし方から自分の気に入った音を見つけて表現していくことをねらいとしている。このことは、第2学年「いろいろながっきの音をさがそう」の学習へとつながっていく。

単元の問題

いろいろな がっきと なかよくなるろう。

- いろいろな おとを みつけて ならそう。
- きにいった おとを みつけて ならそう。
- みみを すませて がっきの おとを きこう。

目 標

<知識及び技能>

○ 音色やリズムなどと曲想の関わりに気付き、楽器の音色に気を付けて表現する技能を身に付けることができる。

<思考力, 判断力, 表現力等>

○ 歌詞の表す様子, 音色やリズムと曲想との関わりから, 曲想に合った表現の仕方について思いをもったり, 曲全体を味わって聴いたりすることができる。

<学びに向かう力, 人間性等>

○ 打楽器の音色のよさや面白さを感じ取って, 互いの音や演奏の仕方を比べながら表現したり, 曲全体を味わって聴いたりする学習に楽しんで取り組んでいる。

誘 導 の 着 眼

【着眼1】 「表したい音色」や「楽器」を基に, リズムや鳴らし方を追究している個への支援
「表したい音色」や「楽器」の選択・決定に基づいて, 子どもが<じゆうにならず>部分について, リズムや鳴らし方を工夫し, 思いをもつことができるように, 以下のような個への働きかけを行う。

子どもの状況	教師の働きかけ
「表したいおと」や「楽器」を迷っている子ども	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時で学習した「やさしい音」「元気な音」「ふしぎな音」「きれいな音」の4つの音の提示 ○ 前時までに見つけた楽器の鳴らし方の動画の提示
「表したいおと」や「楽器」を選択・決定することはできたが, リズムや鳴らし方を迷っている子ども	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習学習のリズムの提示 ○ 「表したいおと」や「楽器」が同じ子どもとの関わり <ul style="list-style-type: none"> ・「Aさんは, どのように鳴らしているのかな。」 ・「どのように鳴らしているのか, 聞いてみてごらん。」 ・「Aさんと一緒に鳴らしてみごらん。」
「表したいおと」や「楽器」を選択・決定し, リズムや鳴らし方を追究することができる子ども	<ul style="list-style-type: none"> ○ さらに追究し, 思いを明確にするための声かけ <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇な音を出すために, どのようなリズムや鳴らし方の工夫をしているのかな。」 ・「さらに〇〇な音を出すために, もっとよいリズムや鳴らし方はないかな。」 ○ 同じ音色や楽器を選択・決定している子へのアドバイスをする場の設定

【着眼2】 リズムや鳴らし方を工夫して, 思いをもって演奏するための学び合い

<じゆうにならず>部分には, 様々なリズムや楽器の鳴らし方があることに気付くことができるように, 様々なリズムや楽器の鳴らし方を共有できるような働きかけを行う。

ねらい (子どもの姿)	教師の働きかけ (手立て)
<じゆうにならず>部分の「リズム」や, 楽器の鳴らし方に気付くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習形態, 場の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択・決定した「表したい音色」や「楽器」を基に, 必要に応じて自由に他者と関わることができるようにする。 ・ 教室を楽器ごとに4分割し, 楽器を鳴らしながら試すことができる場を設定する。 ○ ICTの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ ロイロノートで「表したい音色」と「楽器」を共有し, 「表したい音色」や「楽器」を基に, 友達とリズムや鳴らし方を比べ, 自由に交流できる場を設定する。 ・ 前時までに見つけた楽器の鳴らし方をタブレットで見ることができるように支援する。

展開計画（総時間数 6 時間）

	主な学習活動	教師のねらいとその手立て	評価の規準と観点
出合う・見通す	1 単元で取り扱う楽曲を聴いたり、歌ったりして、学習の見通しをもつ。 1	○ 学習の見通しをもつことができるように、楽器の音に着目して、楽曲「さがしてみよう ならしてみよう」を聴いて歌ったり、鑑賞曲「シンコペーテッドクロック」聴いたりして、出てきた楽器について確かめる場を設定する。	○ 打楽器の音色や音の特徴に興味・関心をもち、歌ったり聴いたりする活動に楽しく取り組もうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
	中心問題 いろいろな がっきと なかよくなるろう。		
挑む	分析問題1 いろいろな おとを みつけて ならそう。		
	2 様々な鳴らし方を試して、一つの楽器からいろいろな音を見付ける。 2	○ トライアングル、すず、タンブリン、カスタネットから色々な音色を表すためには、様々な演奏の仕方があることに気付くことができるように、自由に鳴らしたり、見つけた音色を聴き合ったりする場を設定する。	○ 打楽器の音色と演奏の仕方との関わりに気づき、思いにあった表現をするために必要な、音色に気を付けて打楽器を演奏する技能を身に付けている。 (知識・技能)
分析問題2 きにいった おとを みつけて ならそう。			
	3 表したい音色や楽器を選択・決定し、リズムや鳴らし方を工夫して演奏する。 ＜本時2／2＞2	○ 楽曲「さがしてみよう ならしてみよう」の「たん・たん・たん・うん」の部分の楽器の演奏の仕方を工夫し、演奏することができるように、歌詞に合う演奏の仕方を考えたり、互いに聴き合ったりする活動を設定する。 ○ 楽曲「さがしてみよう ならしてみよう」の＜じゆうにならず＞部分を、どのように演奏するかについて思いをもつことができるように、＜じゆうにならず＞部分を様々な楽器で試しながら「表したい音色」「楽器」を選択・決定し、リズムや鳴らし方を工夫して演奏したり、互いに聴き合ったりする活動を設定する。	○ 「たん・たん・たん・うん」の部分に合う演奏の仕方を考え、演奏している。 (知識・技能) ○ 「表したい音色」「楽器」を選択・決定し、リズムや鳴らし方を工夫して、どのように演奏するかについて思いをもっている。 (思考・判断・表現)
味わう	分析問題3 みみを すまして がっきの おとを きこう。		
	4 楽器の音色やリズムに気を付けながら、曲想を感じ取って、曲全体を味わって聴く。 1	○ 曲の楽しさや演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴くことができるように、ウッドブロックのシンコペーションのリズムの部分を取り出して聴いたり、オノマトペで歌ったりする活動を設定する。	○ 打楽器の音色、リズムと旋律と曲想との関わりから、曲や演奏のよさや面白さを見だし、曲全体を味わって聴いている。 (思考・判断・表現)

(1) 主眼

「さがしてみよう ならしてみよう」の<じゆうにならず>部分を様々な楽器で試しながら演奏したり、互いの演奏を聴き合ったりする活動を通して、リズムや鳴らし方を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつことができるようにする。








(2) 本時における学びを愉しむ子どもの姿

楽曲「さがしてみよう ならしてみよう」の<じゆうにならず>部分について、「表したい音色」やその音色を表すための「楽器」を選択・決定し、リズムや鳴らし方を工夫して思いをもって演奏する姿。 【こだわる】

(3) 準備

打楽器、リズムパターンカード、鳴らし方と音色の掲示物、拡大譜

(4) 展開

学習活動と子どもの意識	誘導上の留意点 (○) と評価 (※)
<p>1 前時学習を想起し、本時学習のめあてをつかむ。</p> <p>前の時間は、「たん・たん・たん・うん」のところが鳴らしてみたから、今日は、<じゆうにならず>ところを自分の好きな楽器で鳴らしてみたいな。</p> 	<p>○ 本時のめあてをつかむことができるように、楽曲「さがしてみよう ならしてみよう」を歌唱し、<じゆうにならず>部分を確かめたり、前時までに学習した楽器の鳴らし方や音色、リズムについてふり返ったりする活動を設定する。</p>
<p>がっきを えらんで じぶんの すきなおとを ならそう。</p>	
<p>2 「さがしてみようならしてみよう」の<じゆうにならず>部分で「表したい音色」「楽器」を選択・決定し、リズムや鳴らし方を工夫して演奏する。</p> <p>わたしは、トライアングルで「やさしいおと」を出したいな。「たん・うん・たん・うん」のリズムでならしてみようかな。</p> <p>ぼくも、「やさしいおと」だけど、楽器が違うね。ぼくは、すずを選んだけど、「シャラシャラ」と鳴らすと、やさしい感じに聴こえるよ。</p> <p>違う楽器でも、どちらも「やさしいおと」に聴こえるね。私も、もっと「やさしいおと」に聴こえるように違う鳴らし方を試してみよう。</p>   	<p>○ <じゆうにならず>部分で「表したい音色」「楽器」を選択・決定することができるように、リズムや鳴らし方を自由に試す活動を設定し、個に応じて既習学習をふり返ったり、他者と関わるができる声かけを行ったりする。 【着眼1】</p> <p>○ リズムや鳴らし方を工夫して演奏することができるように、選んだ「表したい音色」と「楽器」をロイロノートで共有し、自由に交流する活動を設定したり、これまで学習したリズム以外のリズムで演奏したり、前時までに見つけた楽器の鳴らし方をタブレットで見ることができるように支援したりする。 【着眼2】</p>
<p>3 自分の思いに合った演奏をしたり、友達との演奏を聴いたりする。</p> <p>わたしは、「やさしいおと」をトライアングルで演奏します。トライアングルをやさしく叩いて、小さな音で連続して鳴らします。</p> <p>トライアングルをやさしく叩いて、連続して鳴らしているので、とてもやさしい音に聞こえました。</p>  	<p>○ 思いに合った演奏をしたり、どのようなリズムや鳴らし方をしているのかを聴いたりすることができるように、「音色」と「リズム」を提示し、どのようなリズムや鳴らし方をしたのかを説明して演奏したり、「リズム」と「鳴らし方」に焦点を絞り、聴いたりする活動を設定する。</p> <p>※ 「表したい音色」「楽器」を選択・決定し、リズムや鳴らし方を工夫して、どのように演奏するかについて思いをもっている。</p>
<p>4 本時の学習をふり返る。</p> <p>私は、「やさしいおと」をトライアングルで鳴らしました。決まったリズムではなく、連続でやさしく鳴らすと、自分の出したい音が出せました。</p> 	<p>○ 本時の学習をふり返ったり、達成感や次時への学習意欲を高めたりすることができるように、打楽器の音色についてふり返る場を設定したり、思いをもって演奏したことを賞賛して価値づけしたりする。</p>